

# 新潟市民の購買・余暇行動からの 中心市街地活性化について提言



平成 25 年 3 月 11 日  
中央区自治協議会  
拠点と賑わいのまち部会

## 新潟市民の購買・余暇行動からの中心市街地活性化について提言

中心市街地は、新潟市の核としてさまざまな都市機能が集積していますが、近年その活力が低下し、「まちなか」が衰退しつつあります。

中心市街地が本市の核でありつづけるために必要となるまちづくりの方向性について、以下のように提言します。

### 提 言

- ① 中心市街地が持続して発展する「拠点のまち」となるためには、各地域（古町地区・万代地区・新潟駅地区）と郊外のショッピングセンターが対するのではなく、それぞれの役割を意識したまちづくりが必要です。
- ② 「拠点のまち」は誰もがそこに行きやすくなければなりません。そのため交通利便性の高いまちづくりが必要です。
- ③ 「賑わいのまち」を創出するには、歩いて楽しめる空間づくりが重要です。中心市街地の各地域（古町地区・万代地区・新潟駅地区）について、それぞれの特性に合わせた個性あるまちづくりが必要です。
- ④ 一過性のイベント実施では一時的にしか賑わいは生まれません。常に「賑わうまち」を実現するために、継続性のある集客の仕組みづくりが必要です。

## ○提言に係る背景

中央区自治協議会 拠点と賑わいのまち部会では、「中央区区ビジョンまちづくり計画」における中央区のまちづくりの方針、「Ⅰ 拠点のまち」「Ⅱ 賑わいのまち」を担当し、まちづくりの方針を具体化する討論を続けてきました。

【拠点と賑わいのまち部会での検討経過】	
平成 20 年度	「公共交通」について検証・課題の整理 (新交通システムに係る関連企業による勉強会実施等)
平成 21 年度	「古町の活性化」について検証・課題の整理 (古町(1番町～8番町)の現地視察実施、古町西堀地区商店街協議会との意見交換会実施、まちなか再生本部会議への委員出席等)
平成 22 年度	「まちなかに人を」「都心軸」について検証・課題の整理 (都心軸(新潟駅周辺～万代シティ～古町)の現地視察等)
平成 23 年度	高校生の購買・余暇行動と「新潟市中心市街地」に関する調査 (新潟青陵高等学校2年生328人対象)及びワークショップ実施
平成 24 年度	新潟市民の購買・余暇行動と「新潟市中心市街地」に関する調査実施 (20歳以上の新潟市民4,000人対象)

現在、新潟市中心市街地においては大型店舗・商業施設の閉店が生じ、人口については、中心市街地全体に関しては増加傾向にありますが、新潟島地区に関しては減少傾向が続いています。歩行者通行量については減少傾向にあり、小売販売額については市全体としては増加傾向ですが、中心市街地は減少傾向にあります。このように、「中心市街地」「まちなか」の低迷が顕著な状況です。

このことから、中心市街地の活力低下、「まちなか」衰退の原因、「まちなか」を再生する要因を見出すにあたり、新潟市民の「購買余暇活動と中心市街地」との関連性を解明するため、「新潟市民の購買・余暇行動と『新潟市中心市街地』に関する調査」を実施しました。

「市民と市とが協働して地域のまちづくりその他の課題に取り組み、住民自治の推進を図る」という区自治協議会の本旨に基づき、新潟市中央区自治協議会は、調査結果をもとに、中心市街地の「拠点と賑わいのまち」実現に向け、次のとおり提言いたします。

新潟市及び中央区は、この提案に対し具体的に検討していただけますよう、お願いいたします。

## 1. 提言する箇所

新潟市中心市街地活性化計画（H20 認定 H24 改正）に基づき「中心市街地」として定める箇所  
（古町地区 ～ 万代地区 ～ 新潟駅周辺地区）

## 2. 提言内容

**提言①：中心市街地が持続して発展する「拠点のまち」となるためには、各地域（古町地区・万代地区・新潟駅地区）と郊外のショッピングセンターが相対するのではなく、それぞれの役割を意識したまちづくりが必要です。**

**提言②：「拠点のまち」は誰もがそこに行きやすくなければなりません。そのため交通利便性の高いまちづくりが必要です。**

購買・余暇行動を行う目的地について、年齢層・性別・世帯構成の面で違いが生じています。

目的地選択としては、「新潟市郊外のショッピングセンター」が回答全体の36.6%を占めており1位ですが、「古町地区」「万代地区」「新潟駅周辺地区」の合算は42.4%となり上回ります。

「郊外ショッピングセンター」の特性としては一か所で購買・余暇行動を果たせる性質があることから、中心市街地においては、各地区の特性を生かしたうえで、一体感を高めた空間づくりを行うことが必要です。

また、地区それぞれに特性を持つ中心市街地を「拠点」とし、各地域の回遊性を高めるためには、交通利便性の向上を要します。各商業地への交通手段は「自家用車」の利用が多く、とりわけ「新潟市郊外のショッピングセンター」の利用には「自家用車」が顕著な交通手段です。

しかし「自家用車」は、高年齢層になるほど利用率が下がっています。また、目的として「出かけない」という回答が、60歳以上で66.9%となり、高齢化が進行している今日、中心市街地を「拠点のまち」とするには、自家用車の利用のみならず公共交通機関の利便性向上が必要と考えます。

また路線バスやJRという公共交通の利用によって、各商業地の「魅力度」に違いが生じていることも、中心市街地全体を「拠点のまち」とするための考慮すべきところ です。

**提言③：**「賑わいのまち」を創出するには、歩いて楽しめる空間づくりが重要です。中心市街地の各地域（古町地区・万代地区・新潟駅地区）について、それぞれの特性に合わせた個性あるまちづくりが必要です。

**提言④：**一過性のイベント実施では一時的にしか賑わいは生まれません。常に「賑わうまち」を実現するために、継続性のある集客の仕組みづくりが必要です。

商店街に出かける目的には「買い物」「食事」が上位にあがり、同行者は「家族」「友人」が多数を占めています。また、「友人と会う」ことが上位にあがっており、中心市街地で女性が「友人と会う」ことを目的にする比率が高まっています。

「カタログショッピング」「インターネットショッピング」の利用が顕著であり、商品の購入手段が多様化している今日、「家族」「友人」と一緒に、また「ひとりで」も、目的の有無を問わず、まちなかを歩く環境づくりが必要と考えます。中心市街地を休日に過ごす場とするには、多様性のある「歩いて楽しいまちづくり」が必要と考えます。

また、購買・余暇行動者は、目的を果たすことができる場所を「魅力的」と考えます。そして、性別、居住地、通勤・通学先、交通手段、年齢で、感じる「魅力度」に差異があります。

また、居住地別で見た際に、「新潟市郊外のショッピングセンター」のみ「出かけない」割合が「出かける」を上回っていることから、中心市街地としては賑わいを持続する継続性のある集客の仕組みの構築が必要です。

### 3. 提言に係る調査資料

別添「新潟市民の購買・余暇行動と『新潟市中心市街地』に関する調査報告書」のとおり

なお、本事業で得られた調査結果については、市民の二次利用を可能とするために積極的に公開してまいります。